

第6分野 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

基本方針2

**誇り高きところを育み 人の流れを
起こし 産業に結びつく地域づくり
を進めます**

～みんながつながり 広がる古今伝授の
里「大和」～

事業年度	令和6年度
責任部長	大和振興事務所長
責任課長	大和振興課長
責任課	大和振興課
主管課・関係課	大和振興課、社会教育課、商工課、観光課、政策推進課、学校教育課

■ 施策の概要

施策1: 古今伝授の里づくりと担い手づくり **【主管課: 大和振興事務所 振興課】**

大和地域は、東氏ゆかりの歴史文化遺産を活かした「古今伝授の里づくり」をシンボル事業として位置づけ、施設整備や様々な文化事業を実施し、その個性を磨き魅力を高めてきました。その結果「歌のまち」としてのイメージが定着し、交流人口の増加につながっています。また、地域の魅力に共感した移住者が増えつつあります。しかし、このような人の流れを地域の活性化につなげる取り組みは十分とは言えず、加えて少子高齢化に伴う人口減少により、次世代の地域づくりの担い手も減少し、地域力の低下が懸念されます。このため、東氏入部800年、古今伝授550年を契機に、東氏の歴史や文化遺産を検証し、周知や活用につなげ、個性あるまちの魅力を高め、その効果が産業にも結び付き取り組みを進めると同時に、大和地域に住む人々がまちを誇りに思い、心豊かに暮らせる地域づくりを推進します。また、自分たちの地域は自分たちで良くしていくという気運を醸成し、地域住民の自主的な活動を支援していきます。

施策2: 大和地域ブランドの磨き上げ **【主管課: 大和振興事務所 振興課】**

交流・情報発信の場として、古今伝授の里フィールドミュージアム、やまと温泉やすらぎ館、道の駅古今伝授の里やまと、郡上旬菜館やまとの朝市などのほか、商業集積地などに市内外から多くの人が訪れています。また、和歌をはじめとした中世からの文化、どぶろくやジビエをはじめとした食などの地域資源を大和地域ブランドとして確立する取り組みを進めてきました。一方、大和地域の観光入込客は伸び悩んでおり、まだまだ地域資源を活かしきれていないのが現状です。しかし、令和2年に外資系ホテルが進出したことを受け、人の流れが大きく変わることが期待されます。この機会を活かすため、地域資源の活用を進め、多様化する来訪客に対応した観光案内や情報通信環境の整備等を行い、大和地域ブランドの磨き上げを進めます。

施策3: みんながつながる大和づくり **【主管課: 大和振興事務所 振興課】**

令和6年4月に、4つの小学校が統合することから、校区が広がり、ますます地域内の交流の機会が減っていくことが懸念されます。そのため、世代を超えた交流の場を積極的に設け、みんなで地域づくりに取り組んでいく必要があります。今後、コミュニティ・スクールの取り組みと合わせて、統合する新しい小学校が地域や世代間の交流の拠点となるよう検討するとともに、統合により使用されなくなる各小学校の利活用についても検討していきます。

■ 基本方針に係る総括評価(所見) **【責任部長: 大和振興事務所長】**

郡上東氏800年・古今伝授550年祭による継続事業として、清流の国ぎふ「短歌の祭典」古今伝授の里・郡上の開催を通じた市内外への情報発信と合わせ地域の特産物のPR活動の推進、また東氏ゆかりの東庄町との交流、創作オペレッタ「東氏ものがたり」の地域市民参加型の持続可能な公演の開催、次世代を中心とした県内ジュニア短歌大会、大学生が中心となって運営を行った短歌道場など担い手づくりにも取り組むことができました。また、郡上ケーブルテレビや地域情報誌等を活用し、情報の発信と古今伝授の里の魅力を伝える施策に取り組むことができました。

また、大和地域では、どぶろくやジビエ等の地域資源を活用した取り組みを行っているが、第16回全国どぶろく研究大会でのどぶろくコンテストでは3業者が入賞以上の優秀な成績をおさめ、これを契機に更なる地域ブランドの確立と地域経済への展開が期待される。ジビエについては、近年のブームを背景に鹿肉ジャーキーなど新たな商品の開発などにも取り組んでいる。また多様化する来訪客に対応した施策として、過疎ソフト事業における大和地域独自のガイドブックの作製を行い活用することで関係人口の創出展開を図りたい。

地域住民、自治会等も協力し、「やまとの日」として、中学生が積極的に公民館活動に参加し、将来を担う人材育成が期待される。また、廃校となる小学校等、跡地利活用について郡上偕楽園の移転、木遊館サテライト施設構想、また郡上市中学生吹奏楽クラブ、若者会議、子育て支援団体などの活動拠点を含め、大和地域エリア再編(案)を変更し、地域の発展、活性化となるよう公有財産の有効活用を検討していく。

■施策ごとの評価

施策1:古今伝授の里づくりと担い手づくり

【主管課:大和振興事務所 振興課】

評価

A

目指す姿に向けて概ね順調である。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・古今伝授の里づくりによる交流人口は増加しているが、地域の活性化につなげる取り組みは不十分
- ・少子高齢化の進行による地域づくりの担い手不足と地域力の低下

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

「歌のまち」として魅力が高まることでまちを誇りに思い、地域住民が主体となって活動するまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- ・「郡上東氏800年・古今伝授550年祭」事業は終了したが、その実績から認定商品制度と創作オペレッタ公演は継続して実施した。特に創作オペレッタ公演については、当初から10年継続して実施することを視野にいれ継続可能な下地を整えてきたこともあり、次年度においても継続できると考えている。
- また、当事業の成果として東氏のふるさとである千葉県の関係市町との関係強化が図られたことにより、東庄町と児童間の交流も行われた。
- ・「歌のまちづくり」事業の一環として、ジュニア短歌育成事業では大和地域小中学校での短歌教育に対する補助や、市内全域の小中学校を対象とした応募型短歌教室、中京大学文学部の学生と連携した中学、高校での短歌普及事業を実施。また、一般向けでは、初心者向け短歌教室を継続実施し、その受講生を中心にさらにステップアップした連歌教室を行い、和歌の魅力を一層深める機会を創出した。加えて、薪能くるす桜等を実施した。
- ・古今伝授の里春祭りにおいて、大和小学校児童が創作オペレッタの曲の合唱で参加したり、中学生ボランティアを募るなど、活動に触れることで興味を持ってもらい、将来の担い手につなげるための取り組みを実施した。
- ・令和6年度は国民文化祭において、「短歌の祭典」を開催、短歌大会自体は郡上市文化センターが開催したが、付随する「古今伝授の再現」「和歌文学と香りの講座」などのイベントを古今伝授の里フィールドミュージアムにおいて開催し、全国に発信する良い機会となった。和歌文学に秀でた郡上東氏の歴史文化を検証し市民に周知しながら、市民が主体的に参加できる事業を実施することで、歌のまちとしての文化と歴史を持つ地で暮らす誇りに繋がっている。中でも創作オペレッタ「東氏ものがたり」の取り組みでは、脚本・演出から舞台衣装に至るまでオール郡上で制作、公演した実績は大きい。また、短歌教育の市域化にも力を入れ「歌のまち郡上」を標榜するワンステップとなった。

【課題】

- ・800年祭の成果である千葉県の関係市町との交流、関係強化を継続して進める必要がある。
- ・短歌を生かしたまちづくりは、専門性の高い事業を継続しつつ、一般市民向けの裾野が広い取り組みに一層力を入れながら、市域を視野にいれた事業展開をさらに進める必要がある。
- ・小中学生へのアプローチは継続的に行っているものの、次世代の担い手までにはつながっていないことから、高校生を巻き込んだ取り組みを推進する必要がある。県外には郡上よりも高校生の短歌教育が進んだ高校も存在し、そういった高校との交流などを通じて推進していくことで、世代間の分断解消を目指すことも重要である。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・東氏館跡庭園(国名勝)・篠脇城跡(県史跡)が、国史跡指定を受けた。国民文化祭「短歌の祭典」の開催を好機として捉え、市民に対する周知や参画機会を計画的かつ積極的に提供するとともに、参画者を主体にした自主的な取り組みを促す素地を作る。
- 具体的には、郡上東氏800年・古今伝授550年祭や国民文化祭において培った物事と連動させ、東氏の歴史や文化を学ぶ機会を提供し、あわせて、短歌の専門的な内容のフォーラムや展示を開催し「歌のまち」の個性化を図るとともに、学校と連携した高校生を含むジュニア短歌育成や短歌初心者向けの教室開催等により短歌への関心を高め、幅広い世代の歌人を育成していく。
- ・東海環状自動車道全通を見据えて、観光協会等と連携し全国的な情報発信を検討し、地域経済への展開を促していく。このために必要な核施設・古今伝授の里フィールドミュージアムの施設整備や音声ガイド設置の準備等を、教育委員会と連携しながら検討していく。

施策2:大和地域ブランドの磨き上げ

【主管課:大和振興事務所 振興課】

評価 B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源(文化、観光、食等)の活用不足 ・多様化する来訪客への対応の充実 	地域の資源が地域ブランドとして確立され、多様な観光客を受け入れられるまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- ・単なる地図を記したパンフレットではなく、大和町の歴史・文化・商業・観光を網羅したガイドブックを作成し、主要観光施設・宿泊施設等に配布し、訪れる観光客等に数多くある大和町の魅力を知ってもらうことにより、通過型から滞在型を目指す。
- ・観光者の増加へ向けた取り組みとして、篠脇城を中心とした史跡周遊コース歴史看板設置、阿千葉城址の景観保全のための樹木伐採や登山道整備を実施した。
- ・地域資源を活用したブランド力の強化として、獣肉(ジビエ)のPR活動、どぶろく祭りの実施によるPR活動、ぼたん園整備などを実施した。
- ・地域資源を活用した事業は、地域内の民間団体が提案・企画し、団体主導で実施され定着している。地域の人たちにも認知され、市民自身が市外へPRされることで波及的に広がりつつある。また、全国どぶろく研究大会のコンテストでは、出品した事業者全てが入賞したことにより、優れた商品であることが証明され、さらにそれを全国に周知するきっかけとなった。

【課題】

- ・多様な観光客(インバウンド)の受け入れを目指すためには、もっと多くの幅広い地域資源を掘り起こす必要がある。
- ・今取り組んでいる地域資源の活用について、さらに価値のあるモノとなるよう磨き、多くの人にPRする。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・価値のある地域資源を、できるだけ多くの人に見て(感じて)もらえる機会を増やすため、集客力のある施設やイベントでのPRを、市民や民間団体の発想や企画力で実施していく。
- ・どぶろく、ジビエなど単体ではなく、800年祭での認定商品制度のように、東氏の歴史や短歌などの文化といった地域資源と絡めたPRを行っていく。
- ・地域資源を最大限活用できるよう、看板設置、観光案内、SNS発信、ガイドブック制作など、バランスよく魅力の発信を進める。

施策3:みんながつながる大和づくり

【主管課:大和振興事務所 振興課】

評価 B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の統合に向けた準備と統合後の学校の活用 ・校区が広がることによる地域や世代間の交流、連携の希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代・地域を超えた交流の輪がひろがるまち ・学びを通して人と地域がつながるまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- ・令和6年度の小学校統合に向けて、校名、校章を決定し、PTA規約や通学方法、校歌の作成作業を進めた。
- ・オール郡上で制作した創作オペレッタ「東氏ものがたり」を公演、4校の小学生が練習を通じての交流と、制作に携わる地元の大人と一つのことをみんなで創り上げるという経験ができ、統合後の学校生活に向けての良い影響を与えている。
- ・大和中学生と地域の交流を目的にした「やまとの日」は、計画段階から地域の活動に地元の中学生が関わるという取組が、継続されることになった。

【課題】

- ・小学校児童、中学校生徒と地域の繋がりは、コミュニティースクールなどの取り組みや学校の理解協力がありすすめられているが、以前より課題となっている高校生以上の若者や子育て世代と地域の繋がりが希薄となっている。
- ・地区公民館など、現在の校区での地域の繋がりが活動が、学校統合後も続けられるような取組が必要。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・大和小学校が開校となり、令和5年11月に講演した創作オペレッタ「東氏ものがたり」の今後の活用方法について検討していく。
- ・廃校となる小学校の活用について、地域の活性化につながる具体的な活用の可能性を検討していく。
- ・小学校の統合により、校区での活動が地域の衰退とならない取組みや、若者が地域活動に積極的参加できるような仕組みづくりを、地区公民館や地域協議会などと連携し計画を検討していく。

■ 後期基本計画策定後新たに生じた課題等

・

・

■ 関連する個別計画の有無

無